

事業完了報告

日比フレンドシップ・ラン&ウォーク
～台風で被災した子どもたちのために～

日比 NGO ネットワーク (JPN)

2015 年 1 月 23 日

I. 事業概要

1. イベント概要

1) イベント開催の背景と達成目標

(背景)

2013 年 11 月、フィリピンは大型台風 30 号 (ヨランダ) に襲われ、被災者約 1,600 万人、死者 6,000 人以上という甚大な被害をもたらされた。「日比 NGO ネットワーク (JPN)」は、直ちにフィリピン側カウンターパート「比日 NGO パートナーシップ (PJP)」と協力し、支援活動を行ってきた。しかし、半年以上が経っても、国連人道問題調整事務所 (OCHA) によると、260 万人以上が安全な住まいを確保できず、インフラ整備、住宅再建や生計手段の回復など多くの支援が必要となっているという報告している (2014 年 6 月 19 日、シェルタークラスター報告より)。

JPN では、被災した子どもたち、母親たち、農民たちが立ち上がるのを応援するという目的のもと、日本人もフィリピン人も、そしてその他在日外国人も一緒に、楽しく走る・歩くチャリティランを企画した。最低限の必要経費を差し引き、利益はすべて、台風 30 号被災者支援として、「フィリピン農村人材開発パートナーシップ」(PhilDHRRA) による生計手段の復旧支援活動、もしくは「比日 NGO パートナーシップ (PJP)」に関わる他団体の復旧・復興活動に使う予定。

(目的)

- ・ 2013 年 11 月に発生したフィリピン大型台風 30 号 (ヨランダ) の被災者の復旧・復興支援 (収益は、被災地で復興活動を行うローカル NGO に寄付する。)
- ・ 市民のスポーツ増進と健康促進
- ・ 日本人と在日フィリピン人のスポーツイベントを通じた国際親善、協力活動の参加の促進

2) 実施体制

主催：日比 NGO ネットワーク (JPN)

後援：フィリピン共和国大使館、在日フィリピン商工会議所 (PPCIJ)、
日比経済委員会

協力：在日フィリピン留学生協会 (ASFJ)

協賛企業：株式会社セブン銀行、航空集配サービス株式会社 Calamansi Drink
“MANZY”、メトロポリタン銀行

メディアパートナー/宣伝協力：皇居ランナー向けシャワー施設 Run Pit、
Daloy Kayumanggi（在日フィリピン人を対象とした新聞）
その他、物品寄付など：水（横須賀米軍基地で働くフィリピン人が提供）

3) 開催日程：2014年9月23日(火)

4) 開催場所：皇居外苑地区 周回コース（5キロメートル（1周））

II. 事業結果

1. 参加者について

当日は、日比 NGO 関係者はじめ、マリア・テレサ・ガウなどの著名人、在日フィリピン人、一般の社会人、NGO 関係者、大学生、親子など、108名の参加があった。また、ボランティアは高校生、社会人、フィリピン人留学生、NGO 関係者など、40人以上が集まった。

参加者は、口コミでイベントを知った人、インターネットやフェイスブックで情報を見た人、もともと皇居でのランニングに興味があり参加した人など、多様な参加動機が伺えた。フィリピン大使館関係者、協賛企業の社員の参加もあった。

参加者数（参加費の支払者、ゲスト含む） 計 108名
（内訳）大人 101名（女子57名、男子44名）
学生 3名（女子2名、男子1名）
子ども 4名（女子1名、男子3名）

ボランティア参加者数 42名
運営委員、事務局参加数 3名
計 153名

参加のあった著名人：マリア・テレサ・ガウ（歌手、モデル）、クリスティーナ・コリコ（モデル、タレント）、朱里（女子プロレスラー）（上記参加者に含む）

2. イベント内容について

1) スケジュール

12:15 受付開始（予定は12:30であったが、参加者が早く集合しており、早く開始した）

13:30 体操

開会挨拶 ー伊藤道雄（JPN 運営委員会代表）

在日フィリピン共和国大使館特命全権大使：マニユエル・エム・ロペス閣下からのメッセージ（代読）

注意アナウンス、参加者・著名人の紹介

14:00 ー斉スタート

14:19 男子1位のランナーがゴール

- 14:21 女子1位のランナーがゴール
- 14:40 親子1位のランナーがゴール
- 15:00 メダル授与
- 16:00 片付けを行い、解散

2) 当日の運営とスタッフ・ボランティアの配置

当日の運営では、各配置場所に日本人、在日フィリピン人を配置し、日本語・英語・タガログ語で対応ができるように、配慮した。

① 受付：19名

以下の3種類の受付を設置した。支払済みの申込者には、出来る限り、Tシャツ等を事前に送付した。

- 事前に申込・支払いを済ませ、Tシャツ等も送付されている人の受付
- 事前登録したが当日支払う人の受付
- 当日、申込用紙を記入、支払う人の受付

② コース誘導係：10名

③ 案内係：6名

④ その他：水補給、医療（看護師2名、米軍基地救急医療班1名）、写真撮影（写真家2名）、コースガイド（バイク1名）など、7名

4. 反省と自己評価

1) 台風被災者の復旧・復興支援にむけた資金調達

経費を差し引いた収益は176,823円となり、JPNは2015年1月22日、他の募金とともにフィリピン側のカウンターパートの「フィリピン農村人材開発パートナーシップ (PhilDHRRA)」に送金した。PhilDHRRAと被災地で活動するサマール島の被災地で活動するNGO「西サマール開発財団 (WESADEF)」は、東サマール州キナプンダン行政区において、生計手段の形成支援として、泥かこの養殖事業を実施する計画にある。

2) 市民のスポーツ増進と健康促進

さわやかな秋晴れで、事故なく参加者全員が完走、完歩することができ、本イベントを通じて、スポーツを身近に感じてもらうことができた。「ウォーク」を取り入れたことで、走ることが苦手な人も参加することができ、参加者数を増加させることができたと考えられる。

3) 日本人と在日フィリピン人のスポーツイベントを通じた国際親善、協力活動の参加の促進

日本語と英語で告知案内を準備し、JPN運営委員自らに在日フィリピン人コミュニティに積極的に働きかけ、多数のフィリピン人の参加を得ることができた。また、参加者が国際色を感じ、不自由を感じないように、受付や誘導係には、日本人とフィリピン人ボランティアを配置し、英語と日本語で対応できるようにした。スポーツという誰もが参加できるイベントを通じた国際交流の場となったと考えられる。

参加したボランティアの中には、「フィリピン人やその他外国人との交流が新鮮で楽しめた」、「今回は初めてのボランティアだったが、良い経験ができたので JPN が今後主催する他のイベントにも参加したい」などという感想が寄せられなど、ボランティア参加者にも有意義な機会を提供できた。

4) 様々な関係者とのネットワークの構築

収益は 18 万円弱に留まったが、本イベントは、在日フィリピン人コミュニティ、ミュージシャンなど、様々な関係者とのネットワーキングを行う機会となり、JPN の認知度の向上に繋がり、JPN の今後の活動の展開において大きな助けになったと評価する。このネットワークを活用し、イベント開催や資金調達活動に活かしていきたいと考える。

5) 事務局活動・運営について

日比 NGO ネットワークの事務局を担う（特活）アジア・コミュニティ・センター21 は、開催 2 週間前、イベントの補佐を目的としてアルバイト 2 名を雇った。これにより、人員体制を強化することができ、当日運営に向け、スムーズに準備を行うことができた。

一方で、本格的な募集開始が開催の約 2 ヶ月前となり、参加申込者や協賛会社集めが計画通りに進まなかったことは反省点である。募集チラシの作成など、参加者募集のための準備には時間を要するため、今後類似のイベントを計画するときには、準備開始は半年前から行うことが必要と考える。

当日、皇居外苑公園では開会式や閉会式の実施や、ゴールテープの使用が禁止されているなどの規制があったが、ボランティアが協力して創意工夫し、滞りなく実施することができた。しかし、今回の参加者数以上の規模（参加者数 150 人以上）の場合は、他の会場を利用することを提案したい。

なお、当日の運営について、大会運営の経験が豊富な在日フィリピン人が中心となったランニング・グループ「ピース・ストライダーズ・ランニング・クラブ・インターナショナル」の協力を得たことは、本大会を、大きな混乱なく成功裏に進めることが出来た大きな要因である。同グループの協力を謝意を表したい。

4. 収支報告 (別紙参照)

以上